

卵由来の液体肥料の開発を行う ENEGGO と資本業務提携 — 廃棄物である卵殻及び卵殻膜を活用し、脱炭素および持続可能な農業の実現を目指す —

三洋化成工業株式会社
(証券コード 4471)

三洋化成工業株式会社(本社:京都市東山区、以下「三洋化成」)は、卵由来の液体肥料の開発を行う ENEGGO 株式会社(本社:佐賀県佐賀市、以下「エネゴ」)と、これまで廃棄されていた卵殻および卵殻膜を活用した新製品開発及び新技術の研究開発の実施に向けて資本業務提携契約を締結したことをお知らせします。

三洋化成は、今回の出資を通してエネゴと強力なパートナーシップを構築し、液体肥料及び農業資材の共同開発を促進していきます。また、エネゴのペプチド技術やブランドを新たに融合することで、ペプチドのパイプラインを拡充し、三洋化成が注力している「ペプチド農業」の早期確立につなげてまいります。



エネゴは廃棄物である卵殻及び卵殻膜に含まれているタンパク質を独自の技術で可溶化させ、植物の成長に重要なアミノ酸を抽出し、世界初の卵由来有機アミノ酸を配合した液体肥料を開発しています。(特許出願済)

将来的には化学肥料の使用を低減できる新規肥料の開発を目指しており、CO₂削減と循環型社会の実現に向けて活動しています。

三洋化成は、社是「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」のもと、これまで培った界面制御技術をはじめとする化学技術によって、多様な分野の顧客が抱える課題に応えるソリューションビジネスを展開しています。近年は、エネルギー・エレクトロニクス、バイオメディカル分野に加え、人々の健康と暮らしを支えるアグリ・ニュートリション分野にも注力しています。

アグリ・ニュートリション分野では、2021年に株式会社ファーマフーズと共同で策定した「アグリ・ニュートリション基本計画」に基づき、植物の機能を最大限に引き出す成分(ペプチド、アミノ酸等)の研究や、当社のコア技術である界面制御技術を活用して、有効成分を効率的に植物に届けるデリバリー技術の開発を行っています。ペプチドはアミノ酸が複数つながったもので、植物の生育環境への適応や、病害に対する耐性向上のために必要な成分です。特定のペプチドをバイオスティミュラント^{※1}として活用し、植物に与えることで、植物に不足している性質を発現させ、本来のポテンシャルを最大限に引き出すことが期待されています。三洋化成はこのような「ペプチド農業」を通じて、持続可能な農業の実現に貢献することを目指しています。

本資本業務提携を契機に、三洋化成とエネゴは双方の技術とノウハウを駆使し、さらなる生育効果が期待できる液体肥料及び農業資材の開発を共同で推進していきます。更に、三洋化成のコア技術である界面制御技術により、植物に対する液体肥料の施肥効率を高め、環境負荷の高い化学肥料の使用量を低減させる取り組みも進めてまいります。また、三洋化成は、エネゴのペプチド技術を融合することで「アグリ・ニュートリション基本計画」の中核であるペプチド技術のパイプラインを拡充させ、「ペプチド農業」の早期確立につなげていきます。

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、三洋化成とエネゴは更なるCO₂排出量の削減に取り組んでいき、両社で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※1 植物に対する悪天候や干害といった非生物学的ストレスを制御することで植物のダメージを軽減し、農作物の収量、品質、耐性向上などを図る新しい技術

▼ ENEGGO 株式会社 会社概要

本社所在地:佐賀県佐賀市鍋島町大字蛸久1539-1

代表者:代表取締役 下 浩史

設立:2022年2月

事業内容:卵由来の液体肥料の開発製造及び販売

ホームページ:<https://eneggo.com/>

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

三洋化成工業株式会社

経営企画本部 広報部

電話 075-541-4312

<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>